

市バスで一筆書きに挑戦

バス好きにはもってこいの市内散策



伊丹市はほぼ5^分四方のコンパクトなまちだが、市バスの路線数が45路線と充実している。そこで一日乗車券(600円)を利用し、一筆書きのように、一日でできるだけ多くの停留所を回る乗り方に挑戦してみた。

ここでいう一筆書きとは、出発地から同じ停留所を通らず、できるだけ長く乗り続けて終着点を目指すことだ。市バスが大好きな私には、興味津々の試みだった。

ある5月の土曜日。天候晴。

阪急伊丹から8時41分の52系統JR中山寺行きのバスで出発。車窓から外を眺めていると、東野あたりで果樹園が多いのに気が付く。古くて大きな家が目立つ。降車したのは荒牧バラ公園。ここで10時35分発のJR伊丹駅行きを待つ。時間があるので荒牧バラ公園を散策。また近くにはみどりのプラザがあり、伊丹の緑について解説していた。

次にJR伊丹行きに乗り、昆陽里へ向かう。小腹が空いてき

たので、停留所へ着くと乗り換え時間を利用して、近くのイズミヤ昆陽店に寄り、地下の食堂街でラーメンを食べる。おいしかった。続いて11時41分の塚口行きのバスに乗り、塚口1丁目へ。乗換まで時間があつたので、阪急塚口まで歩き時間をつぶす。

12時31分のバスに乗り、伊丹病院住友前へ向かい、さらに乗換えて中野大橋へ向かう。13時47分のバスに乗り、終点となる阪急伊丹に13時58分に到着。そして今回のチャレンジに乾杯するため、JR伊丹駅の観光物産ギャラリーで、伊丹銘酒飲みくらべセットを購入。乾杯条例に従って、家で祝杯をあげた。

市バスの停留所は計164カ所あるが、私がこの日周ったのは計65カ所。約6時間20分で、3分の1以上の停留所を制覇するバス旅を堪能した。コンパクトなまちだからこそ、一つの路線に乗っている時間が長くなりすぎず、快適に市内を散策することができた。

今回のルートは上図のとおりだが、他にも一筆書きのルートがあるかもしれない。皆さんも自分なりのルートを考えてチャレンジしてみたいかがだろう。ちなみにJR伊丹から10時57分の三師団交通局前行きのバスに乗り、瑞ヶ池で12時40分の荒牧バラ公園へ行くバスに乗り換える方法もあるが、瑞ヶ池で2時間近く待つのは辛いので今回は断念した。(細尾 哲也)

郷土史ごぼれ話 24

荒木村重の移城の謎に新事実

尼崎城主に信長との和睦の動き



国史跡有岡城跡に立つ歌碑

今、荒木村重研究が熱くなっている。伊丹・有岡城主だった村重の謎の生き方に新資料が見つかり、伊丹での講演活動でおなじみの、気鋭の戦国史研究者・天野忠幸・天理大准教授が近著「荒木村重」(2017戎光祥出版)で論陣を張っている。注目される点を紹介しよう。

天正6年(1578)10月、主君である信長から離反した。天下布武に向けて非人道的な、

また家臣の心がわからないやり方などに愛想が尽きたためであり、將軍、足利義昭への忠節を誓った。

その9カ月後、攻防のさ中に突如、有岡城から尼崎城へと移った。①それは何故か。実は尼崎城主だった嫡男の村次に、信長側との和睦の動きがささやかれていたのだ。天正7年6月、雑賀衆の鈴木重秀から毛利水軍の武将、乃美宗勝にあてた書状

城内には厭戦気分が蔓延し、守勢はわずか。村重が入城したときは、率いてきた御前衆も合わせ600〜700人程度だったという。尼崎城の防御は、有岡城よりも危機に瀕していたのだ。城主自らの移城にはこれまで諸説があつたが、そうであれば領ける。入城後、村重は、矢継ぎ早に戦線の再構築に向けて雑賀衆・毛利へ援軍を要請し陣頭指揮に

るが、私がこの日周ったのは計65カ所。約6時間20分で、3分の1以上の停留所を制覇するバス旅を堪能した。コンパクトなまちだからこそ、一つの路線に乗っている時間が長くなりすぎず、快適に市内を散策することができた。

今回のルートは上図のとおりだが、他にも一筆書きのルートがあるかもしれない。皆さんも自分なりのルートを考えてチャレンジしてみたいかがだろう。ちなみにJR伊丹から10時57分の三師団交通局前行きのバスに乗り、瑞ヶ池で12時40分の荒牧バラ公園へ行くバスに乗り換える方法もあるが、瑞ヶ池で2時間近く待つのは辛いので今回は断念した。(細尾 哲也)

立った。本研究会員で村重の末裔である荒木幹雄氏の真摯な研究は、これを立証している。

②村重移城後の有岡城主は誰か。妻のだしである。城内の出丸に住んでいたの、「だし殿」と呼ばれた。だしに城をまかせると云い切ったのは注目される。当主不在の際の事例としては、駿河の国の今川氏親の室、寿桂尼(信長に討たれた今川義元の母)などがある。

荒木村重研究会では、これらの謎を解こうと取り組んでいる。今が旬のこの研究に参加し、一緒に謎を探ってみませんか。平成26年の大河ドラマ「軍師官兵衛」では、伊丹のまちには全国から多くの歴史ファンが訪れたが、来年の大河ドラマは織田信長を本能寺の変に討った明智光秀の「麒麟がくる」だ。同じ離反者の生涯。主人公の明智光秀と縁の深い村重は、どのように描かれるのだろうか。(郷土史研究家 森本 啓一)



ことば蔵公募企画

受賞者決まる

ことば蔵はこのほど、本のしおりの出来栄を競う「第5回しおりんピック」の金メダルに横浜市の主婦、佐藤恭子さん(60)を、また、架空の本のタイトル「出来栄を競う」第4回タイトルだけグランプリ」の最高賞(田辺聖子名誉館長賞)に愛知県刈谷市、中村誠香さん(40)の作品「平成最後のはじめまして〜やり残していることありませんか?」をそれぞれ選んだ。

しおりんピックには、全国から80点の応募があり、画家で市芸術家協会代表幹事の北里桂一さんが審査して金・銀・銅メダルが選ばれた。また、来館者による投票で「ことば蔵賞」が選ばれた。



しおりんピック金メダル受賞作品

金メダルを受賞した佐藤さんは「しおりは、読書タイムと一緒に過ごす友達のような存在です。そんなイメージから、親しみをもってずっと大切にしてみよう、身近な犬をモチーフにしました」と話していた。

金メダル以外の入賞者は次のとおり。▽銀メダルⅡ大阪府豊中市の真鍋晴美さん▽銅メダルⅡ静岡県藤枝市の落合哉美さん▽「ことば蔵賞」Ⅱ埼玉県鶴ヶ島市の吉村佐代子さん

タイトルだけグランプリでは、全国から過去最多の3千286点の応募があつた。

田辺聖子文学館賞には、西宮市、芳賀尚晃さんの作品「あなたに見つめられて」スマホ自らが語る、素直な気持ち」が、宮本輝ミュージアム賞には、神奈川県川崎市、富樫舞さん「一冊図書館ある街の一冊しか本がない図書館のお話」がそれぞれ選ばれた。近年急速に普及したスマートフォンを主人公とした点や、図書館に一冊しか本がない点など、何枚でも文章が書けるような魅力や視点を変える面白さがどちらも評価された。

受賞者の一人、富樫さんは「賞を頂けると思っていたのが、一冊しか本がない図書館。そんな図書館があつたらどんな人が訪れ、どんな物語が繰り広げられるのだろう」という空想からタイトルを考えました。」と話していた。

他の入賞者と作品は次のとおり。

▽ことば蔵賞Ⅱ愛知県名古屋市の加藤さくらさん「好きなことをやろう!人は好きなことしか変われない」▽ことば蔵特別賞Ⅱ伊丹市、瓜山祥恵さん「夫は、おととつと!いつでも、何でも、ぎりぎりセーフな夫」